

1月の植物

セリ (セリ科)

学名 : *Oenanthe javanica* (Blume) DC

セリに出会うと幼少の頃の食卓を思い出す。貧しい食卓にこんもり盛られたホウレンソウの胡麻和え。胡麻和えは好きだったがその中にセリが混ざっていて、きつい匂いに食が進まなかったので、よく祖母に「食べんば！」と叱られた。そのきつい匂い、60 数年経った今では懐かしく感じられている。

セリは湿地や水路、溝、水田などに生える水生多年草で地下茎の節から新芽を出して増える。茎は多小枝を出し高さ 20~80 cmになる。葉は 1-2 回 3 出羽状複葉で小葉は卵形、粗い鋸歯がある。花期は 7-8 月で花弁は白色。果実は楕円形。

日本全土、千島・樺太、東南アジアからインド・オーストラリアに分布し、佐賀県内には各地の湿地や水路などにごく普通に生える。香気と歯触りが好まれ、汁の実、お浸し、寿司の具などに用いられるため、全国的に栽培されている。名前の由来は、新苗がたくさん出る様子を「競り合っている」という意味とされる。県内では各地で「せー」、佐賀、鳥栖、多久で「せい」の方言があり、あえもの（ごまじょーい）、酢味噌和えなどにして食され、富士町では「せーはかっごどいが鳴くようになると食べん」と言われる。また、古事記、万葉集にも詠まれ、春の七草として「芹、薺、御形、繁縷、鈴菜、清白これぞ七草」がある。食欲増進、利尿、神経痛、小児の解熱などの薬効があり、正月七日には七草粥の材料にされる。 (文責 井手義信)



写真は 2018.3.1 牛津町 枠内は.2017.6.26 佐賀市

参考文献：日本の野生植物Ⅱ，佐賀県植物目録 1981，薬草観察ハンドブック
花歳時記大辞典，佐賀の植物方言と民俗—増補改訂版—